

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170101414		
法人名	有限会社 悠らいふ		
事業所名	悠ライフ さくら山鼻		
所在地	札幌市中央区南16条西9丁目1番33号		
自己評価作成日	平成22年9月20日	評価結果市町村受理日	平成23年1月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigocho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170101414&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年11月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「悠ライフさくら山鼻」は山や公園が近くにある住宅街の中に立地しています。スーパー、保育園、小学校や児童館などもあって時折交流の機会を設けています。雰囲気は明るく家庭的な環境づくりを心掛けていて、ご入居様が「当たり前」の生活を送ることができるように家族会の協力をいただきながら『ゆったりとした自由な暮らし』『穏やかで安らぎのある暮らし』『自分らしい尊厳のある暮らし』など“至福の時間(とき)”を実現できるように支援しています。特に北海道の気候・風土が感じられるように季節毎の外出行事や室内外の環境整備にも力を入れています。運営推進会議や避難訓練、周年祭では、民生委員や地域住民の出席があり協力の輪が広がっています。職員はそれぞれの仕事を通して「ホーム」を「我が家」として協力し合って維持管理しています。一方、認知症ケアの専門性や介護技術を高めるために月刊誌の購読や講師を招いて学習会も開いています。そんなグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設5年目を迎える当ホームは、藻岩山を間近に、公園、小学校、商業施設が点在する閑静な住宅街に位置しています。地域や家族の方々から、七夕用の笹の葉の寄付、昔ながらの生活用品や調度品の収集、避難訓練、畑作業、音楽会に協力をいただくなど、「地域や家族の方々の協力なしではホームの運営は成り立たない」と職員は感謝と信頼を寄せています。各職員は常に自己研鑽に励み、ホームの質の向上に向けて前進している「悠ライフさくら山鼻」です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1日1回、事業所の理念や目標を職員一同、唱和をし共有を図っている。	地域社会との交流の中で、ホームの質向上を目指した経営理念やホーム理念に加え、毎月目標を設定し日々実践に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	2ヶ月に1回近隣の方や民生委員の方などを招き、地域運営推進会議を行っている。また周年祭、畑作りや避難訓練の際など地域の方を招き交流の機会を図っている。	町内の清掃や神輿行列拝観、ホームの祭や音楽会に相互の参加があり、さらに園児や小学生、実習生、ボランティアとの交流もあるなど、地域と積極的な繋がりを図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の行事の際など、入居者様と一緒にゴミ拾いなどを通じて理解を深めて頂いている。また地域運営推進会議において事業所や入居者様の日頃の様子などをお伝えしている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回近隣の方や民生委員の方などを招き、地域運営推進会議を行っている。その際に出されたご意見の中で慰問やそば打ちなど行事として取り入れサービスの向上に努めている。	柔軟なメンバー構成のもと、2ヵ月毎に開催され、ホームの現状や運営内容の報告、防災訓練等が協議され、提案により、園児との交流や蕎麦打ち披露等が実現しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故があった際など市町村には必ず報告を入れている。また月毎に入居実績の報告を行っている。	行政担当者とは情報交換やホームの困難事例、事故報告等の課題に助言をいただくなど、現状に即した協働態勢が構築されています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護業務マニュアルの中に身体拘束に関しての取扱要領を定め、職員に周知している。日頃のケアにおける身体拘束はしていない。玄関は防犯の目的に17:30～翌朝7:00まで施錠している。	身体拘束に繋がる具体例のマニュアルを整備し、会議や研修、さらに日々の関わりで、トイレ、入浴、着替時等に無意識に身体拘束が行われていないかを職員間で確認に努めています。玄関は夜間のみ施錠しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の全体会議において虐待に関する勉強会を行い、各職員へ周知している。また日頃から入居者様の皮膚等状態やケースなどの情報から虐待がないか確認しています			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の全体会議において成年後見人に関する勉強会を行い、各職員へ周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際には、ご家族様並びに入居者様を交え説明し、同意を得ている。また日頃から疑問等があればお伺いし説明している。家族会にて定期的な意見交換も実施している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設けており、家族同士で話し合いを持つ機会や運営に関する説明をお伺いし、反映させている。最近では音楽療法を導入している。	利用者とは会話の中で、家族とは第三者機関の周知や家族会、来訪時等で要望や意見を把握し、課題は具体策を検討し、音楽療法や漬物作りなどが実現しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃のホームの運営に関して各職員で担当を持ち、運営に関する提案や推進を行っている。日頃や全体会議において意見等を伺っている。また、入居者様の意見を聞きながら、行事計画を職員が主体となって企画書を作り、運営に参加している。	職員は運営に各自役割を担っており、意見や提案が活かされる状況にあります。ホーム長は職員の心情を察知する取り組みを行い、シフトを含め、労働環境の整備に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が安心して働けるように、就業規則の説明会を実施し、今後の事業展開を説明すると共に、退職金制度の導入と、適切な評価を実施する為にキャリアパスの導入を図った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスの導入に伴い、個人の力量を自己申告して、管理者と職員が面談を行いレベルの向上を図っている。また、毎月内部研修を実施し、外部研修を受ける機会も確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は中央区のグループホーム管理者連絡会へ参加し、他グループホームとのネットワークづくりを行っている。また他の地域運営推進会議に参加し、今後交流を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に御本人様や御家族様と面談を行い、生活暦や疾病、要望等を伺っている。また、職員間でカンファレンスを行い情報の共有を図っている。入居後も御本人様の不安を伺い対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に御本人様や御家族様と面談を行い、生活暦や疾病、要望等を伺っています。日頃からの関係を気付けるよう面会時や電話・手紙などを通してお話を伺うようにし関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に御本人様や御家族様と面談を行い、生活暦や疾病、要望等を伺っている。また職員間でカンファレンスを行い情報の共有を図り、必要に応じて、福祉用具などの提案をして支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一緒に生活するものとしての立場に立ち、日常生活の中で一緒に食事作りや洗濯物たたみなどを一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を立ち上げ、共に入居者様を支援していく体制作りをしている。日頃から病院の受診や行事への参加など一緒に生活を支えて頂いている。また、ご家族様を交えて漬物作りなどを実施している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様によって差はあるが、ご家族様や親類の方とは自由な面会や電話などを通して継続した関係を築けている。また、入居の際にはなじみのものを持ってきて頂いている。買い物等（例えば仏花）の外出支援もさせて頂いている。	利用者への来訪者受け入れ、ドライブで馴染みの土地への訪問など、時には家族の協力をいただき、利用者が培ってきた地域社会との交流支援に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室やリビングにおいて親しい関係が築けるよう、音楽や共通の話題、趣味、仕事をしながら、良い環境作りを提供できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後でも新たな生活先が見つかるよう他の関係機関と連携を図りながら、支援している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自身の意思を伝えられる方は日常的な会話などから把握するよう努めている。伝えられない方は入居者様の動作や表情などから想いを汲み取るようにしている。	生活歴や会話で利用者の思いを汲み取っています。困難な場合は、動作、表情、仕草等で推し量っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前や入居後などに御本人様やご家族様から生活歴に関する情報を伺い把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の状況等ケース記録に状態を記入し共有を図っている。また、センター方式を利用し、日頃の会話の中から「できること」「好きなこと」などの情報を得るようにしている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画変更前には必要な情報を職員から聞き、入居者様、ご家族様の意向を取り入れ、入居者様の現状を踏まえた上、随時変更もしている。	利用者や家族の意向、個人記録や担当職員の意見を参考に会議で検討し、介護計画を作成しています。評価後は、6ヵ月毎の見直しや急変時には、現状に沿った介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々ケース記録を記載し、センター方式を活用しながら、入居者様の状況を記載している。また、介護計画評価表を活用し介護計画の実施状況の確認を行っている。月に1度カンファレンスも行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族会等で意見が上がった音楽療法は外部の講師を招いて実施している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人の協力を得て畑づくりを行い野菜を育てています。町内の清掃日には参加し、防災訓練では地域の皆様と一緒にやっている。また音楽療法士を招き、音楽療法を月1回開催している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医と月2回内科の往診を行っているが、御家族様や入居者様の希望に応じて、他の病院への通院も行うなど支援している。	かかりつけ医への受診は家族が支援し、状態変化時は職員も同行し情報を伝えています。往診を受けている利用者もおり、情報は関係者の共有としています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回医療連携看護師の健康チェックを行い、日常的な健康管理についての支援をしている。また必要に応じて主治医との連携を図り受診の支援もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際にはご家族や病院関係者から情報を収集し、状態の確認を行っている。また定期的に面会をして入居者様の状態を見ると同時に、ご家族と退院にむけての話し合いを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	寝たきりなど医療行為が必要になりそうな場合、今後の見通しを主治医に確認し、ご家族とホーム側で話し合いを行い、転居を含めた上でホームの生活を検討している。	対応指針と同意書を整備しています。終末期には、ホームとして出来る限りの支援に努め、家族、医療機関と段階的に話し合い、方針を統一する体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急病時におけるマニュアルを作成し、所持品リストを作り、すぐ持ち出せる体制にしている。今後は仮想も予定している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力のもと、訓練を行っている。その他、独自に仮想訓練を事業所内で実施している。	年2回、昼夜想定避難訓練を地域の方々の協力をいただき実施しています。さらに毎月、設備点検を行い防災に努めています。	町内会を含む連絡網や利用者の一時的屋内避難場所の確保、災害備品の用意等を検討していますので、その取り組みに期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であることを念頭に置き入居者様個人の性格等を理解したうえで声掛け等を行っている。	個人記録は適切に管理され、利用者の人格を尊重し、一人ひとりに沿った接遇に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いや希望を伺えるよう、コミュニケーションを図り、入居者様のご希望に添えるようにしている。例えば、食事、おやつ等食べたい物をお聞きし、メニューに取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	センター方式を活用し、入居者様のその日の状態や生活パターンを把握した上で、無理のない生活を送ることができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には、入居者様に化粧をして頂いたり、そのときに応じた、外出着に着替えて頂けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや食器拭き、食材の仕分けなど入居者様の身体状況に応じて職員と一緒にやっている。また、好みの食べ物をお聞きし、メニューに取り入れている。	利用者の好みや希望を反映した献立を作成しています。利用者は一連の食事作業で力を発揮しています。菜園の野菜が食卓に上がる時は会話も弾んでいます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事メニューは外部業者へ委託し、適切な栄養値にて提供させて頂いている。また、必要に応じてその方に合った食形態にして、摂取しやすいようにしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床・入床時、食間の口腔ケアをし、義歯の方は洗浄剤を入れ夜間保管している。また、入居者様の歯の状態にあわせて、歯ブラシを選び、口腔ケアをさせて頂いている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの排泄パターンや習慣を生かして、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。、夜間歩行状態が悪い方には、手引き歩行や付き添いをしている。	排泄記録で一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導により、トイレでの排泄や自立排泄に向け失敗を減らす方策を図っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談しながら入居者様に応じた薬を調整するなどし、排便コントロールを行っている。また、牛乳、ヨーグルト、食物繊維の食材を献立に多く取り入れる様にしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	常に入浴を希望される入居者様には、要望を聞き都度入浴して頂いている。それ以外入居者様は予定を立て週2回入浴できるよう、体調や気分を考慮し対応している。自立している入居者様には、入浴の準備も一緒にして頂いている。	毎日入浴できる体制ですが、入浴チェック表や利用者の体調を参考に、週2回の入浴支援を行っています。困難な場合は、シャワー浴や清拭に変えています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様が安心して休めるように、居室内の温度や湿度、照明の明るさ、音等に気を配りして就寝の雰囲気作りをしている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬に関して薬の効果・副作用等を確認している。また誤薬予防のため職員同士で服薬前に確認し、一人ひとり手渡しにて服用して頂いている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの入居者様の興味や得意なことを把握して、生活の中で洗濯・掃除・食事づくりなどの役割と好きな歌を唄う機会を設けている。また、散歩や他のユニットへ出かけるなど気分転換もできるように支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩以外に四季に沿って行動計画を立て外出の支援を行っています。またご家族様と夕食や外出などをされる方もおられる。また、入居者様の希望、要望に沿って外出支援を行っている。	散歩や買い物、菜園や花壇の散策、前庭での団欒、さらに利用者の意向を反映した外出行事を企画し、花見や動物園の見学、夕食等で外気に触れる機会を作っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様によっては、ご自身で金銭管理をして、買い物等を楽しまれている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様個人で携帯電話を所持したり、ホームの電話に知人の方から電話がかかってこられた際には取り次ぎをしている。また、ご希望があれば職員が電話をかけるなどの支援している			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備に気を配り、喚起、温度調節や採光の調整を行っている。また、季節にあった花や壁掛け等を飾り、心地よく過ごせるようにしている。	共有空間は、全てがゆったりとした造作になっており、1階の多目室には、年代物の調度品や生活用品が陳列されています。リビングや廊下には季節に合わせた利用者や職員の共同作品や行事の写真が掲示されています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、ソファや椅子等を設置しています。毎日、入居者様同士でお話したり、音楽を聴いたり、唄ったり、うたた寝をされている。また、1人でおられている時はお声かけにてコミュニケーションを図れるよう支援している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇等を持参された入居者様は、命日には、お花を飾ったり、お供え物をされている。また、鏡台を持参された入居者様は、毎日鏡台の前で、身支度をされている。壁に、お孫様の写真を貼って、ご覧になり喜ばれる方もいらっしゃる。	居室には家族の協力をいただき、利用以前に使用された家具や調度品、趣味の品が配置され、居心地の良い環境作りに努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下などに手すりを設置している。また、転倒や怪我をしないで入居者様一人で歩けるように、ベッドに保護クッションをつけた手すりを設置している入居者様もいる。またキッチンも中央部に配置し、入居者様が手伝いやすい環境づくりを行っている			